



# 登米市民病院だより

2018年12月号 Vol. 011

編集・発行 / 事務局  
TEL 0220-44-4795  
FAX 0220-22-0345  
E-mail iryo-somu@city.  
tome.miyagi.jp

## 市民公開シンポジウム～登米市医療のあり方を考える～を開催しました

平成30年10月6日（土）に登米祝祭劇場大ホールで登米市医療のあり方を考える市民公開シンポジウムを下記の2部構成にて開催しました。

基調講演で大内管理者は、登米市での医師不足の原因や登米市民病院の現状等を市民の皆さまに示しました。さらに、医療体制の立直しのためには、基幹型臨床研修病院の指定を受けることによる若い医師の受入体制の強化や病院の財政改革を行う必要があることを伝えました。

次に、徳永先生からは、公共交通という観点から登米市医療を詳細にデータ分析していただき、様々な課題等をご指摘いただきました。

最後に、栗谷先生からは、独立行政法人化により病院の経営改善に成功した生の貴重なお話をいただきました。弾力的かつ迅速に経営活動を行うことができる独立行政法人という運営形態は、登米市医療が目指すモデルケースの一つとして考えさせられるものでした。



### 第1部 基調講演(14:10～15:40)

基調講演題目名	職名	氏名
1.登米市医療の現状と課題	登米市病院事業管理者	大内 憲明
2.公共交通及び都市計画から見た医療	宮城大学副学長・教授	徳永 幸之氏
3.地域医療を守るためにすべきこと	(地独)山形県・酒田市病院機構理事長	栗谷 義樹氏

### 第2部 パネルディスカッション「登米市医療のあり方を考える」(15:45～17:00)

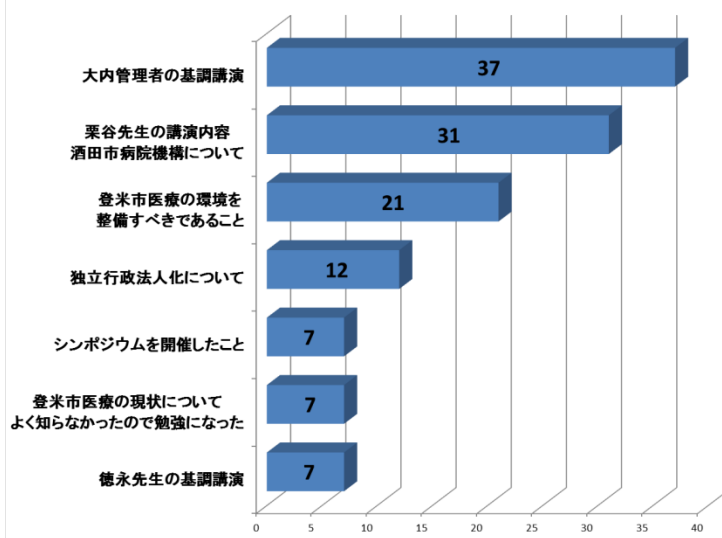
○パネリスト		○座長	
(地独)山形県・酒田市病院機構理事長	栗谷 義樹氏	登米市病院事業管理者	大内 憲明
宮城大学副学長・教授	徳永 幸之氏		
登米市医師会理事・八嶋中央診療所院長	八嶋 徳吉氏		
登米市の医療を考える会会長	須藤 明美氏		
登米市市民生活部健康推進課長	佐々木 秀美		
登米市医療局長・登米市民病院長	松本 宏		



(裏面に続く)

## 市民公開シンポジウムのアンケートの集計結果について

### 市民公開シンポジウムで印象に残ったこと(一部抜粋)



市民公開シンポジウムにご参加いただいた市民の皆さま311名のうち、154名の方にアンケートをご記入いただきました。回答内容を集計したところ、「大内管理者の基調講演」や、平成20年に独立行政法人化した「酒田市病院機構の内容」などが市民の皆さまの印象に残ったようでした。  
(左図参照)

## 登米市民病院で鍼灸外来が新しく始まりました！

市民病院では、鍼灸（はり治療）外来を新設しました！

施術料は1回につき3,240円となります。  
なお、施術をご希望される場合は、事前に総合診療科（内科）の診察(月～木：午前)が必要となります。

詳しくは、医事課医事係にお尋ねください。

【問い合わせ：事務局（医事課医事係）0220-22-5511（代表）（内線124）】

## ご面会のために来院される皆さまへのお知らせ

ご面会される際には、感染症の予防のために、マスクの着用と手指のアルコール消毒をお願いします。

なお、今後のインフルエンザ等の流行状況に応じて面会禁止とさせていただく場合もございます。

来院される皆さまには、お手数とご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力をお願いします。

登米市民病院

